

令和2年度 島田市立島田第二中学校



☆校

二中だより 10月号

訓 文化の薫る学校の創造

☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

令和2年 10月1日 発行

「2020年の島二中の秋と世界の秋」

<島二中の秋>

「生徒の思いが凝縮された体育大会！！」

体育大会前日まで天候不順で蒸し暑いが続いていましたが、体育大会当日は、奇跡的に爽やかな絶好のコンディションとなりました。きっと生徒の皆さんの練習での熱い思いと取組が天に通じたのでしょう。スローガンは、3年生川合さんの「高め合おう 仲間との絆」。シンボルマークは、1年生の齋藤さん・山本さん、3年生の小林さん・寺川さん・吉田さんです。果たして、随所で「仲間と絆」が見られる大会となりました。リレーで倒れながら仲間へ渡したバトン、また、ゴール直前で倒れてもその友を温かく迎える仲間たち。更に、一糸乱れぬ演技と力の限り声を出した応援合戦。どれも例年より集中力が増した演技に感じられました。特に3年生の体育大会の練習・当日の取り組む姿には素晴らしいものがあり、「もう、コロナ世代とは言わせない！」というロゴが一瞬目に浮かびました。開会式で皆さんへ伝えた「スポーツは私たちに夢と感動を伝え、文化芸術は私たちの心を豊かにしてくれる」の言葉とお、「文化の薫る学校が」今、真っ盛りです。



<オランダ・ロッテルダムの秋> ※友人からのメール

「(前略)…ここオランダでは、幼稚園、小・中学生はコロナが増えた3~6月の始めまではオンラインで、その後は徐々に学校に通えるようになり、『12歳以下はマスクなし』という国の指示で今は普通に対面授業をしています。13歳以上の中・高生もずっとオンラインで、9月の新学期からは「指定場所のみのマスク着用」という規則で、普通に学校で対面授業が行われる予定です。夏休みは日本と違って7~8月まで2か月余りの例年と同じ日数でした。大学生は9月以降もオンライン授業のようで、かなりの不満が出ています。また、オランダ社会には「自粛警察」みたいな表れは全くありません。「コロナに罹ることは誰でも起こり得ることで誰も責めることではない」と逆に寄り添ってくれます。これは、日本のような「連帯責任の強い国」と『自己責任の欧米諸国』との違いでしょうか。本当の優しさというのは見せかけの優しさではなく、そういうところでその個人や国民性の本質が出てしまうのではないかと思います。オランダは罹ってしまった人は責めませんが、その代わりにコロナと政府を責めています。オランダ社会全体は、今、経済をどのように回すかが一番の関心事で、『高齢者や疾患保持者には注意を払いつつも、テレワークしながら健康で働ける人はどんどん働きましょう！』という雰囲気です。」

<コロンビア・ボゴタの秋>

ボゴタ日本人学校山中史章校長(元島四小校長)からもメールが届きました。「9月11日南米コロンビア首都ボゴタで、アメリカ同様に警察への抗議デモが暴動に発展し、少なくとも10人が死亡、数百人が負傷した」という事件に呼応したものです。山中校長先生のメールの内容は「ボゴタはコロンビアの首都ですが、決して治安がよいとは言えません。昨年もデモで、スクールバスの運行に支障が生じ、校長がバスに同乗しようとしたら、『危ないからやめてください！』と言われたり、大雨で道路が冠水して休校になって対処を協議したりと、1年で10年ぐらい経ったようです。日本のように教育委員会から学校への指示や支援はありません。教職員の判断が全てですが、その判断には命がかかっていますからとても重大です。日本人学校は、比較的治安がよい文教地区と言われる閑静な所にあります。そうは言っても校舎の周囲は、鉄柵付の2.5m以上の厚いレンガに囲まれ、ガードマンが拳銃を持って24時間体制で警護しています。私は未だにずっと在宅勤務で学校へ勤務ができていません。本年度は、一日も授業日がない日が続いており、ずっとオンライン学習を続けています。…(後略)」山中校長先生からは、世界の厳しい状況と現地日本人学校の悩みを伝えるメールでした。

これから、世界はどんな景色になっていくのでしょうか。

島田市立島田第二中学校 校長 池谷英人